

東邦ガス株式会社
供給管理部 幹線設計室

深津 彰省

平成8年卒業(第55回)



私は大学院を卒業後、東邦ガスに入社し、現在はガス導管を建設する部門で輸送用パイプラインの工事設計や将来計画の企画に従事しています。名古屋大学減災連携研究センターと連携した地震対策にも携わる機会もいただき、大学とのご縁を感じながら仕事をさせていただいております。

話は変わりますが、本年、東山会企業理事を拝命したのを機会に、久しぶりに大学キャンパス付近をぶら散歩してみました。本山駅から山手グリーンロードを歩き、当時の生活圏で昔の面影を探すと、案外と懐かしい風景に出会うことができた一方で、地下鉄や名古屋高速の開通、学内建物の建て替えなどでキャンパスは驚くほど近代化されており、改めて20年という月日の経過を感じました。

様々な所で雑談している学生たちを見ていると、青春を謳歌していることへの羨ましさと、「今も変わってないな」という安心感を覚えました。学生時代の私はお世辞にも「できた学生」だったとは言えず、授業を抜け出して友人と遊びの計画ばかりしていましたので…。そんな私ですが、大学で学んだ体系的な知識や技術的なものの考え方が、現在の基礎になっていると感じることがよくあります。仕事柄、土木や建築、材料について勉強する機会が多くありますが、どの技術も学部時代に学んだことと、どこか根っこで繋がっており、機械屋として学生時代を過ごせた幸せを、今更ながら感じます。

また、携帯電話を片手にしている学生を見て、最近気になっていることも思い出しました。若者たちがすぐにインターネットで「答え」を探そうとする傾向です。Wikipedia 病なんて呼んでいます、「世の中、便利になったものです…」と片付けていいものかと。私たちは学生時代、苦労して調べることで知識の引き出しを増やし、それらを関連付けることで問題を解決したり、直観や洞察力を磨いたりしていたように思います。若者たちの優れた情報検索能力は見習いながら、若き技術者へ「自分の頭で考え抜くことの大切さ」を伝えていくことが、私たちに求められているのかも知れません。

思い出が詰まった地をぶら散歩してみることで、若き日の自分を振り返りつつ、日頃は考えないようなことに思いを巡らせることができました。原点に帰って、

すこし客観的になって周囲を眺めてみるのも、たまには良いかもしれません。

最後に、東山会会員の皆様のご活躍とご健康を祈念して、会員からの便りとさせていただきます。